国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ
T-over人権教育研究所・人権こども塾　ニュース

みんなで語り合う人権学習、全体学習があってよかった、と感じた教え子の、「その後」です。

Q．十数年経った今、「全体学習」をどう思っているか？

現在私は関西に住んでいますが、同和地区に対する偏見はたまに耳にして、複雑な思いになることがあります。もっとそのような問題がオープンに、みんなが自分の問題として考えることができたなら、偏見はもっと早くなくなっていくのではないかと思うからです。

また、私は仕事で心や身体に障がいを持つ人と日常的に関わっていますが、関わる前と後では、その人たちに対する思いが全然変わってきたと感じています。その人たちがもつ悩みに気づくと、その人を差別しようという気持ちなどいつの間にかなくなっているのです。

最近では、障がいを持つ人や性的マイノリティの人など、様々な人が自分のことをオープンにして積極的に社会に出ていると感じます。そのようなことは、社会にとってはとても大切なことだと思いますし、同和問題も同じような形でオープンに語られるべきだと考えています。

社会に出れば、やはりどこかで部落差別に出会うわけです。そのときに、自分なりの学びの蓄積がなければ、どう転んでしまうか分かりません。

部落差別の解消を願い、被差別部落の人びとが自ら立ちあがり謳われた「水平社宣言」。それが発表されて、今年で100年。

「100年たっても……」という思いはあります。ありますが、部落差別に限らず、あらゆるマイノリティが自らの思いを声にする時代へと変わってきたことも確かです。「水平社宣言」は、その礎を担ってきたわけです。

長い道のりではありますが、この道のりを後退させることなく、様々なマイノリティと結束して、これからの時代を創造していければと思います。

中学生の頃は、いろいろと思うことも多く、たくさん理想も語っていましたが、なかなか思うように具体的な行動を起こせずに、ただお茶を濁してしまうような一面があったなあと思いますが、それでも、当時の仲間と語り合ったことは、今でも大切に覚えていますし、そのような熱い気持ちを忘れずに、日々頑張っていかなければとも思っています。

全体学習のような取り組みが、様々な所で広がり、みんなが自分のことをオープンにできる場所が少しでも増えればと思っています。

やはり、頭だけではすぐに忘れてしまうものなのかもしれません。
交流すること、ふれあうこと。相手の熱を感じること。
「感動で胸に響いたからこそ覚えている」そう綴ってきた教え子もいました。
知識も大切ではあるけれど、単に「知る」のではなく、熱と共に「知る」こと。心で「知る」こと。共感的に「知る」こと。そんな学びを、私たちは肝に銘じておかなければならないのだと思います。

うずしおブランチニュースを私からお伝えするのは、今回で最後となりました。これまで拙い文を読んでいただき、本当にありがとうございました。

次号からは、共同代表である森口健司が担当いたしますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

本気の人権学習は、――「すべてを変える」

うずしおブランチ共同代表　吉成 正士